

津麦ニュース 令和4年産

作柄報告版

令和4年10月28日発行

津地域農業改良普及センター

電話:059-223-5103

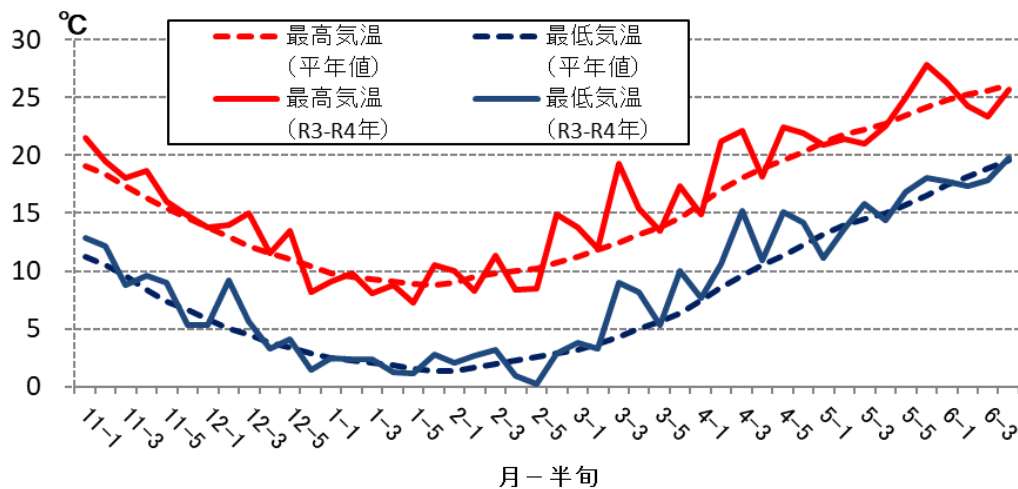
<生育経過>

播種時期となる11月中旬以降は降雨が少なく、播種作業は順調に行われました。12月半ばから1月にかけて気温の低い時期があり、生育が停滞しましたが、2月以降に気温が平年より高めに経過したため、生育が進みました。出穂は、早いところで4月5日頃から始まり、出穂期のピークは4月10日から4月15日頃となりました。開花は4月10日頃から始まり、4月中旬には多くのところで開花期を迎えました。出穂期以降、4月下旬から5月中旬までは日照が少なく経過しましたが、5月中旬以降は日照が多くなりました。成熟期は平年並みとなり、11月上旬播種で5月30日頃となりました。

<気象経過>

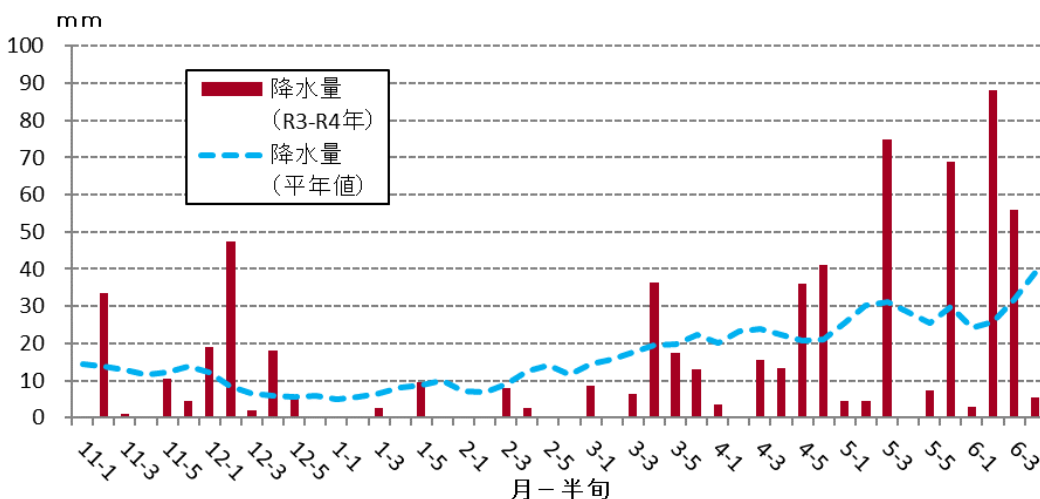
○気温

12月第3半旬～1月第5半旬は気温が低下しましたが、2月以降は気温が高く推移しました。



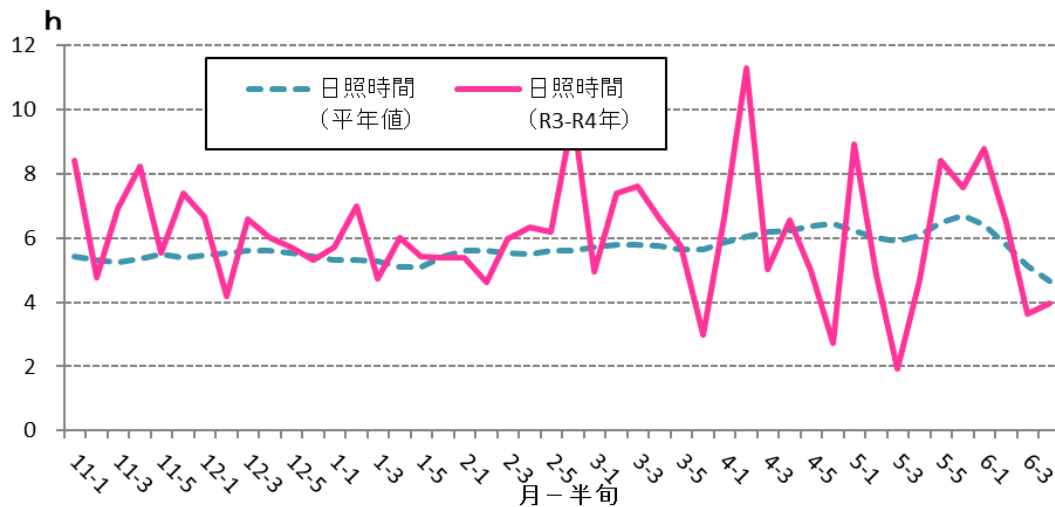
○降水量

1月第4半旬までは少なかったものの、以降は周期的にまとまった量の雨が降り、4月下旬～5月中旬の降水量は平年を上回りました。



○日照時間

4月中旬までは概ね平年より多照に経過しましたが、4月下旬から5月中旬にかけての日照時間が少なくなりました。



<作柄の概況>

播種時期の天候に恵まれたことから、苗立は確保されました。一時気温の低下により生育が停滞しましたが、その後は、順調に生育し、茎数(穂数)は確保されました。3月から4月にかけて降水量が多くなり、排水の悪いところでは葉の黄化など湿害が見られました。4月下旬から5月中旬にかけて降雨や曇りが多く日照が短くなりましたが、5月中旬以降に十分な日照時間を確保できたことから、登熟は良好となり、調製時に網下となる粒(屑麦)の割合が少なくなりました。このため、単収は昨年度を上回る 305kg/10a となりました。

なお、5月中旬にまとまった降雨が数日あり、赤カビ病の多発が懸念されましたが、2回目防除の実施により収量に大きな影響はありませんでした。

	令和4年産	(参考)令和3年産
津市 小麦平均単収	305kg/10a	274kg/10a

数字は普及センター調べ

○R4年産小麦生育基準ほの成熟期調査

調査場所	品種	播種日	稈長 (cm)	穂数 (本/m ²)	穂長 (cm)	出穂期	成熟期
芸濃	あやひかり	11月10日	78.6	478.9	9.8	4月8日	5月30日
殿村		11月8日	84.6	1150.0	7.7	4月8日	5月27日
白山		11月13日	93.3	686.0	10.2	4月12日	5月30日

○令和4年産小麦生育基準ほの収量調査結果

調査場所	品種	精麦重 (kg/10a)	千粒重 (g)	タンパク含有量 (%)
芸濃	あやひかり	643	42.0	8.4
殿村		586	43.7	8.7
川口		755	41.5	8.5

(参考) 令和3年産小麦生育基準ほの千粒重の平均は37.3g

<令和5年産の対策>

1 排水対策

小麦は生育期間を通じて湿害にあいやすく、排水管理の徹底が重要です。播種前のチゼル深耕や排水溝の設置によりほ場の排水性を高めましょう。なお、排水溝は連結し、ほ場の排水口につなぐとともに、冬場に溝が崩れていないか点検を行い、補修を行いましょ。春以降に降水量が多くなるため、それまでに排水溝の整備をしておきましょう。

2 土づくり

小麦の播種前に土壌診断を行い、診断結果に基づいて土壌改良を行いましょ。

土壌の酸性化による生育障害が一部で発生しています。pH6～6.5になるよう石灰資材を施用して酸度矯正を行いましょ。

堆肥の施用により、土壌の物理性の改善と地力向上を図り、後作大豆や水稲の収量・品質向上にも効果があります。

3 追肥

小麦の収量確保には、穂数の確保と粒の充実が必要で、分けつ期に十分な栄養を与えることが重要です。肥切れは収量低下の要因となる一方で、過剰になると倒伏等の原因となります。「つなぎ肥」を含め、「追肥」は生育状況に応じて行いましょ。

全量元肥施肥の場合は、基本的に追肥不要ですが、年によっては後半に肥料切れが見られる場合があり、状況に応じて追肥を行いましょ。

あやひかりは、タンパク含有量が高くなり過ぎることを避けるため、出穂期以降の追肥はやめましょ。

4 赤かび病防除

防除の適期は、開花始期から開花盛期です。開花前や開花後の防除では効果が劣ります。気温にもよりますが、開花期は出穂の7～10日後が目安です。必ず開花を確認してから防除を行いましょ。1回目の防除後、降雨が続くなど、赤カビ病の多発が懸念される場合は、2回目の防除を実施しましょ。2回目の防除は、1回目防除の7～10日後が効果的となります。

5 収穫

収穫作業を開始する目安は、穀粒水分が28%以下となつてからです。しかし、成熟期後、雨にあたると穂発芽が発生したり、外観も悪化して大きく品質を低下させます。雨害を防止するため、成熟期近くになったら収穫の準備を行い、天気予報や生育状況を注視して、雨が続きそうな場合は適期より少し早め(水分30%余)から収穫作業を開始しましょ。